

2001年11月20日 No. 58

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤 一郎

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL 03-3434-1236

FAX 03-3433-0334

# 全国一般全国協

## 全国協・全日建・全港湾3単産の共同行動を進め中小労働運動の発展を!

### 11/10~12 3単産合同学習会が成功

#### 全国一般労働組合全国協議会

中央執行委員長 中岡 基明



五・三%、三百七十五万と失業率が高まり、労組の組織率が低下し、組合が見えない、あるいは闘わない中で、三単産の仲間は、中小労働者の利益を代表して

#### 全日本建設運輸連帯労働組合

中央執行委員長 長谷川 武久



三つの組合が共同で運動し、全国的結集をどう作るのか。中小労働者が置かれている状況は厳しいが、一企業、一業界、一産業で生き残れる状況ではない。総

#### 全日本港湾労働組合

中央執行委員長 安田 憲司



闘いを進める。先日も、三単産委員長で厚生労働省への申し入れを行ない、現状を把握し政策に反映せよと迫った。闘いを交流し、共闘を積み重ね、組織統合も視野に入れながら、共同行動を強化していこう。中小労働者の利益の実現に向け、率直な議論を行なおう。多発テロ、報復戦争と言う事態に対し、三単産は共通して反戦平和と国際連帯を重視して闘おう。

三単産の労働省交渉では、局長は「連合から聞いたからよい」と対応し、「中小の現場の声を聞け」と迫った。「来年まで待ってくれ」と言っ、怒りをもって闘う。各分科会で出された職場の共通点を、地域に持ち帰り一人でも二人でも仲間を増やそう。同じ釜の飯を食った意識で前進し、固有名詞で呼び合える仲間になろう。当面共闘と言う事で認識した学習会を大事にし、和を広げ、地域で共闘を広げよう。

がかりの反撃が必要である。失業、倒産の中で中小労組は、自らが闘い運動を作る、団結を作る条件が高まっている。大小、運動の違い、産業の違いを超えて新たな運動の創造が必要である。三単産を強化し、中小を中心にした社会へ変革し、非正規、外国人労働者の権利を確立しよう。中小の政策を確立し、国・自治体に働きかけ、労働運動全体の活性化を実現しよう。



3単産合同学習会全体会議

# 全国一般全国協秋の闘い

## 九・二六小泉改革反対集会 四二二〇名結集！秋季闘争開始

痛みを一方的に労働者に押し付ける小泉改革と対決する秋季闘争の出発と位置付け、賛同人を広く結集し集会を呼びかけた。会場の総評会館には四二二〇名が詰めかけ、主催者の準備した三五〇の資料が足りなくなると。九月十一日に発生した米国でのテロとそれに対する報復戦争の準備、日本への加担と言う状況の中、秋の闘いに向けた決意のみなざる緊張した集会となった。小泉改革の危険とためらめさを訴える慶応大学教授金子勝さん、韓国の構造調整プログラムと闘ってきたユ・トクサンさんの講演を受け、新自由主義路線のもらすものが労働者の痛みだけである事、それに対する労働組合を中心とした組織的反撃が必要なる事が確認された。小泉改革「NO」の大きなコールで、秋の闘いの出発を確認した。

## 国会座り込み行動、厚生労働省前宣伝行動、辻説法、怒りの大集会 連続的に取組む

臨時国会開催日の九月十七日、全労協、九・二六集会呼びかけ人、中小労組政策ネットワークなどが、小泉改革NO！戦争NO！を訴え、国会前の座り込み抗議行動を展開した。以降毎週、連続して、全労協を中心に国会前抗議座り込み行動が続けられている。十一月十二日、十三日には、新宿駅頭での辻説法、街頭宣伝が展開

され、十四日には、小泉改革と戦争協力を許さない怒りの大集会を取組んできた。

また、有期労働・裁量労働の要件緩和、解雇ルールづくりなどを検討する厚生労働省労働政策審議会労働条件分科会（旧労働基準審議会）の開催に抗議し、連続的に厚生労働省前宣伝行動を展開してきた。小泉改革NO！戦争NO！秋の全国草の根キャンペーンは北関東、大阪など各地で取組まれ、十一月二十二日には東京で

リストラ企業糾弾、争議支援、厚生労働省抗議の一日

行動と集会、国会デモが取組まれる。

## 十一月十〜十二日 中小労働運動の強化を目指す三単産合同学習会 大成功

全港湾、全日建連帯、全国一般全国協三単産の合同学習会が、豊橋で、各組織の中心メンバー二四名が結集し開催された。中野隆宣（朝日新聞記者）さんから「中小労働運動に期待す

るもの」と題する講演を受けた。講演では日本の労働組合が「企業内組合主義の弊害の中で力を衰退させてきていること、これを克服しゼネラルユニオンの形成を中小労働運動として取組む事の重要性を示唆するものであった。三日間の学習を通し、三単産の運動と組織の違いを相互に理解しあい、同時に、個人加盟の企業の外にある組合としての共通性を確認した。今後、組織化キャンペーンや政策要求運動の取組みを積み上げ、共闘の中から中小労働運動の強化発展を追求していくことを確認し、大成功の内に終了した。

世界同時不況への突入が言われる中で、再び大規模なリストラ提案が横行し始めた。失業率は、過去最高五・三％、実質一〇％を越えるまで言われている。資本経営の攻撃は、余剰労働力を企業社会から放逐するばかりでなく、雇用労働力をいかに効率的、低賃金で活用するかに焦点を当てている。その核心は、従来の長期雇用を前提にした賃金抑制攻撃と質的に異なる成果主義賃金の導入であり、進行する情報技術革新による労働と職場の変化を基盤に労働者の分断と競争を拡大

大し賃金コストを柔軟化しようとするものだ。中小企業の職場でも、サービスマン・事務労働の現場を中心に成果・業績主義賃金の導入の動きが加速している。

績主義賃金は、使用者が一方的・主観的評価を加える問題点にとどまらず、職能階級を厳格に適用して職能毎の賃金を上限を定めて管理するという全体的賃金構

組合の取り組みの基本に、時間外労働の規制を中心とした労働時間管理、規制の強化をおく必要性が確認された。今後、①同一価値労働同一賃金原則の確立、②企業外の労働力市場の規制、③将来にわたる賃金水準の確保、最低賃金基準の確立、④人事評価の規制、評価基準・方法の透明性、反映幅の縮小、情報公開、苦情処理、団交による規制などを焦点に、さらなる問題整理と取り組みの強化をはかっていきたい。

## 成績給導入をめぐる問題点と労組の課題

全国一般東京南部

東京南部では、この間、導入職場の情報交換会を昨年七月以来七回にわたって開催し、その実態報告の上で木下武男（鹿児島国際大学教授）を招き学習会をもった。このなかから成果・業

造の転換となっている実態が明らかになった。同時に目標管理制度とともに導入されており、使用者からの同意の強制に対して労働組合としての規制の困難さも問題となった。また、労働

# 秋一年末闘争の報告

## 安倍川製紙労働組合

二十年以上前に分裂させられた少数派組合ですが、「職場と地域にこだわりつづけた」運動は、厳しい時代の今、「しぶとさ」をあらわにしています。勿論、年末一時金を始めとする要求を会社に提出して団体交渉を行っている。この内容は週三回発行している職場ビラ「伝書鳩」によって数日のうちに併存する組合員にも細かく知らせています。ある課長は、「会社の会議は、伝書鳩を読んでいるのを前提に行っている」と公然と話しています。

王子製紙の子会社である安倍川は、系列会社再編の年末一時金闘争！契約社員の大社員化を勝ち取るぞ

## 大鵬薬品労働組合

大鵬労組にとって、秋の闘いは非常に大きな意味がある。なぜならば、一般の企業と違い、年末に賃上げ闘争があるからである。今年の賃上げは二万五千円を要求しているが、ここ

から九千円の回答が予想される。毎年ストライキを実施し、ピラミッドを行なっているが、会社側から二次回答を引き出せず口惜しい思いをしながら、個人的な査定問題に進んでしまっている。今年は頑張って二次回答を引き出したい。年末一時金については組合六ヶ月要求に対して、会社回答五ヶ月で、年間十ヶ月を毎年妥結している。これといった闘いはできない

## 労働組合としての飛躍をめざして

### 山口連帯労働組合

去る十月二十八日に第五回定期大会を開催し、あらためて地域合同労組としての私たちの役割について議論し、よりいっそう開かれた組合づくりをめざすことを確認した。

零細の職場で働く仲間の無権利で不安定な労働条件の改善と「退職」をめぐる条件の獲得、パートで働く仲間の労災問題などを通して、労働組合としての力をたくわえてきた。夏から秋にかけて、経営が行き詰まるばかりの零細の経営者と職安

（きる）職場のルールが必要だと、九月に職安前でのピラミッドを行なった。今後も組合の存在を広くアピールしながら労働相談活動を積極的にとりくみ、組合員拡大と運動の拡大をめざしていく。

## 日本の戦争参加を許さない！ 10・21ピースウォークIN郡山

### 郡山連帯労組

私達も参加する「戦争への道を許さない郡山の集い（十四団体）」呼びかけの反戦行動が、ピースウォークIN郡山として十月二十一日国際反戦デーに郡山駅前で開催された。

まず、午後一時から駅前広場でリレートークが行なわれた。『空爆で罪のない人々が殺されている。日本が経験した空襲と同じだ。』『報復のために戦争をするのはおかしい。』『憲法を破って戦争に参加する為に自衛隊が派兵されようとしている。反対の意思をみんなではっきり示そう。』参加者が次々と発言し、広場の市民も注目している。

その後、参加者は駅前一帯の四箇所に分散して、チラシまき・署名・平和メッセージ

徹底した弱肉強食の「構造改革」、自衛隊の海外派兵―日本の参戦―を強行する小泉政権を許さず、地域や全国のさまざまな運動と結びついて反撃していきたい。

セージボードへの記入・シール投票の呼びかけ等を行なう。ヴァイオリンの演奏も登場した。高校生など若者を中心に敏感な反応が返ってくる。更に、駅前広場を出発して各活動地点を結ぶピースウォークが行なわれた。それぞれの思いを書いたプラカードやメッセージボードを掲げる。太鼓やクラリネットの音がにぎやかに人々を包み再び駅前広場に到着。百人を超える行動参加者で閉会集会を行い、シール投票者の九割が戦争反対の意思表示をした事が報告され、今後も反戦統一行動の継続を確認して終了した。

私たち郡山連帯労組も反戦闘争の強化の為に奮闘する覚悟でいる。

# リストラ・倒産・失業との闘い

## 【寄稿】 いすゞ自動車川崎工場 閉鎖反対の闘い

全造船機械労働組合関東地方協議会

九月二十日、川崎市産業振興会館の一階ホールは四百名近い労働者が結集して満員となった。今年で二回目の『元氣が出る集会』―自分達の組合の課題を、一人の演説ではなく様々な表現方法で訴えると言うのがコンセプト。劇や詩の朗読、パフォーマンスなどで会場は大いに沸いた。ハイライトは、いすゞ川崎工場閉鎖反対！で闘う全造船いすゞ分会、構内下請のヤサカ分会、

## 失業者も入れる地域労組として再出発

いわき自由労働組合

私たちの組合は、工場閉鎖反対闘争を昨年六月に終結して以降、小名浜地区労に加盟し地区労事務所間借りしながら、エルナーいわき退職者の再就職支援・雇用創出支援を重点活動にして、失業者も入れる地域労働組合として再出発しました。再就職支援につい

九千七百人の削減、下請企業の四十％を切捨てと言うリストラ案を提示してきた。勿論呑めるものでは断じてない。前回のときは、職場地域の大きな支援を得て、構内下請企業であるヤサカの職場を工場内に確保させた。しかし今回は、工場丸ごとの閉鎖案だ。すでに下請外国人労働者の首切りも始まっており、攻防戦となっている。皆さんの協力を頂いて、工場閉鎖反対、職場を残せ、下請労働者の切捨てを許さない闘いに勝利したい。

て取り組みを始めました。様々な事業を模索する中で、現在は五名の組合員で、店舗・排水設備等の清掃事業と賃貸住宅専門の内装工事事業をメインにした取り組みが進められています。

厳しい就職環境の中で、未だ多くの仲間が再就職できずに苦しんでおり、フリーワークも経営的にはまだまだ厳しいものがあり、組合員の生活保障にはまだまだ

ですが、端緒にはつけたと思います。地域労組としては、昨年九月から未組織労働者の労働相談活動も行っています。あまり宣伝もしていないのですが、一年間で五件の相談があり、活動を通じて新規組合員も獲得

## 【寄稿】 許さぬNTT11万人リストラ攻撃！全労働者にかけられた攻撃を打ち砕こう

電通労組全国協議会

NTT十一万人リストラ攻撃は大きな山場を迎えている。十二月からNTT労働者は彼らの合意に基づき、労働者に対して「退職・労働条件の切り下げの上、再雇用する道か、仕事も無い、どこに飛ばすか判らないという道か」の選択を迫ろうとしている。NTTリストラ問題は、労働法制を無視しながら労働条件の一方的切捨てと、実質的解雇を行なうところにある。「日本型

「解雇はしない」「あくまでも本人選択」というNTTの主張は、明らかに退職・

していません。ある意味で、労働相談は時代のニーズに一番合っている仕事かもしれない第四の道」を全国のNTT労働者に訴えかけていく。そして、NTTリストラが不法行為であるということを経営者に明らかにしNTTを包囲する全国的取り組みが今こそ必要であると考えています。自由法曹団常任幹事会声明にあるように政府が法を尊重させる責任を問うような、法曹界、労働団体、労働組合など、また、社会的サービスを投げ捨てようとするNTTに対し企業責任を問う行政、自治体への取り組みと申し入れ等など。あらゆる角度からNTT問題をとり上げ社会化することが大きな課題になります。私達、電通労組全国協議会はNTTリストラを打ち砕くために多くの闘う仲間の支援と連帯の行動を必要としています。全国各地のNTT労働者の深い憤りに対して、私達と共に闘おうと言うメッセージを届けたいと思っています。全国一般全国協の闘う仲間の皆さんに、わたし達の闘いに熱い連帯と支援をお願いします。

## 「小泉改革NO！NTTを社会的に包囲する全国運動を！」

再雇用の違法・脱法性をNTTがクリアできないことを意味しており、私達はそれ